

スポーツ情報戦略に関するネットワークコミュニティの構築

豊田則成¹⁾ 望月 聡¹⁾ 志賀 充¹⁾ 高橋佳三¹⁾

A report about the Network Community of Sport Intelligence between BSSC and JISS

Norishige TOYODA, Satoru MOCHIZUKI, Mitsuru SHIGA, Keizo TAKAHASHI

Key words : sport intelligence, Japan Institute of Sports Sciences (JISS), network community, SMART-System, support for sport coaching

キーワード：スポーツ情報戦略，国立スポーツ科学センター（JISS），ネットワークコミュニティ，スマートシステム，スポーツ指導支援

1. はじめに

ここでは、本学と国立スポーツ科学センター（以下JISSと称す）との間にスポーツ情報戦略に関するネットワークコミュニティを構築するに至った経緯と、そこから得られた成果について報告する。

そもそも、本学がスポーツ情報戦略コースを立ち上げたのは、2009年4月のことである。この新コースの立ち上げに際して、昨今の競技スポーツ情勢を様々な角度から検討し

た結果、2つの重要な活動領域が既存することを見出した。それは、日本サッカー協会テクニカルハウスとJISS情報戦略部であった。

まず、日本サッカー協会テクニカルハウスは、戦術分析はもちろんのこと、指導者が指導する上で有益なキーコンセプトを世界的なビジョンから導き出していた。膨大な情報を地道に分析し、指導現場にフィードバックしていた。日本サッカーが世界に躍進した背景には、テクニカルハウスの存在があったといえる。

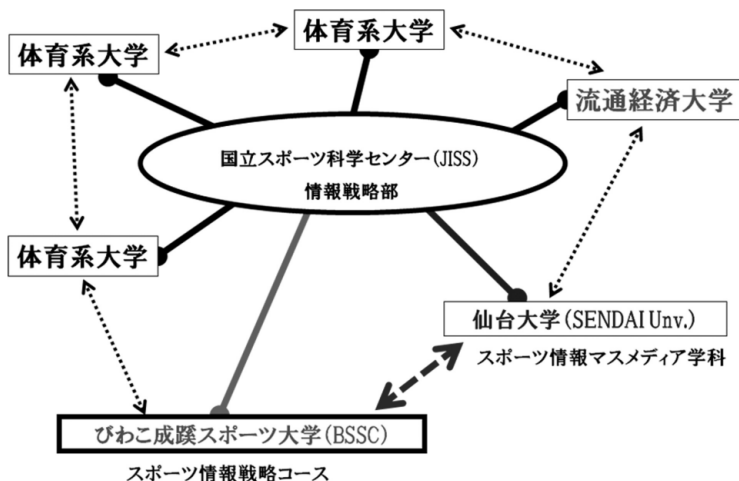


図1 JISSと体育系大学によるネットワークコミュニティ

1) 競技スポーツ学科

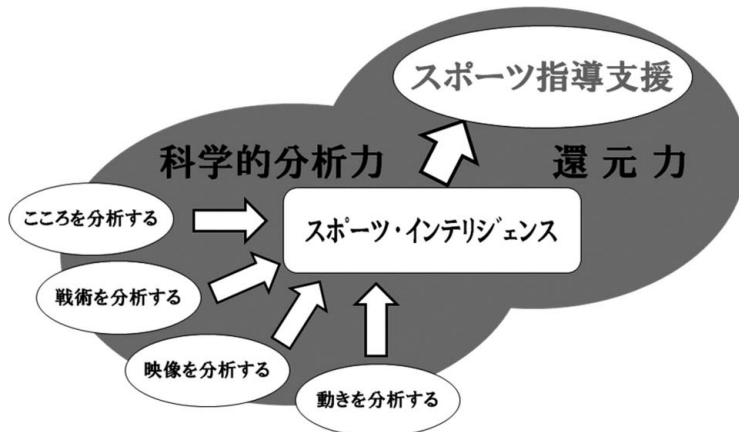


図2 スポーツ情報戦略コースの新しいコンセプト

次に、JISS情報戦略部においては、世界に散在するスポーツに関連した情報をインテリジェンス化し、あらゆるスポーツシーンに役立てようと活発化していた。JISSは、オリンピック大会をはじめとする国際大会における日本選手団の活躍に大きく寄与し、スポーツの地域貢献の雛形的な成果を得ていた。

2. スポーツ情報戦略のコンセプト

「スポーツ情報戦略」とは、「スポーツに関連する情報を戦略的に活用する」ことに他ならない。そのような取り組みに専門的に関われる人材を育成することがスポーツ情報戦略コースの使命でもある（豊田，2008）。

そこで、新コースを開設しようとした当初、本学におけるスポーツ情報戦略コースのコンセプトとして2つのキーワードを設定することとした。それは、「科学的分析力」と「還元力」である。スポーツフィールドには、様々なデータが散在している。これらのデータをスポーツフィールドにおいて有益となるよう高次の情報へ加工するため、最新の「科学的分析力」を導入する必要がある。また、その科学的分析力をもって有益化した高次の情報を、正しくスポーツフィールドにフィードバックする「還元力」を養う必要がある。これら2つの鍵概念からコースを運営している。

3. ネットワークコミュニティの構築

新コースを立ち上げると、前述のJISS情報戦略部から共同プロジェクトの企画／要請を受けた。そこでは、仙台大学も含めて、JISSを中核に据えたネットワークコミュニティ構築を主眼とした（図1）。

4. スポーツ指導支援を目指す

スポーツ情報戦略のコンセプトについてはまだまだ議論の余地がある。スポーツフィールドで獲得したデータを分析し、再びスポーツフィールドへ正しく還元することは、まさにコーチングであるとの声もある。それを否むことはできない。しかしながら、コーチングとの差別化を図るならば、スポーツ情報戦略は、「スポーツ指導支援 (Coaching Support)」を目指すスポーツ学専門領域といえる（図2）。本学スポーツ情報戦略コースは、「こころ」「うごき」「作戦」「映像」といった分析領域から、スポーツ指導場面に支援的かつ効果的に関わる人材を養うこと目指している。

【文献】

豊田則成（2008）スポーツにおける情報戦略の役割。びわこ成蹊スポーツ大学編 スポーツ学のすすめ。大修館書店：東京，pp. 174-177。